

■正答

- 一 ① 江
- 2 1 ②
- 3 1 (例) 私は、投書①の、「体に無理な負担をかけてまでスポーツをすることはない」という意見に反対です。理由は、練習方法を改善すれば、体をこわすことはないと思うからです。(七十九字)
- (例) 私は、投書②の、「勝利を求めなければ、人は努力をしない」という意見に反対です。なぜなら、勝ち負けのためだけではなく、上手になりたいという気持ちで努力をすることを思うからです。(八十五字)
- 二 1 ウ  
 2 「百聞は一見にしかず」

■考え方

- 一 1 投書は書き手の考えが述べられている文章です。まず、見出しに着目して書き手のおおまかな考えをつかみましょう。次に、この投書は、はじめと終わりに書き手の考えが述べられている構成ですので、この部分に着目して情報をとらえましょう。アの「体に負担をかけるスポーツ」、イの「スポーツはけがをしないことが目的」、ウの「練習時間の長さで勝利」の部分が、書き手が扱っていない内容ですので、解答です。
- 二 このように、文章や資料等から情報を的確にとらえるためには、全体の構成や見出しなどに着目し、文章や資料全体の書き手の持ちようをふまえた上で、読み手にとって必要な情報を見付けることが大切です。
- 2 書き手が、読み手を説得するために、理由を付したり、根拠を挙げたりしている部分に着目します。投書①は、「自分の実際の経験」を述べているのに対し、投書②は「見たり聞いたこと」を述べているので、正答は②です。
- 3 文章全体から書き手の主張がどこにあるのかを見付け出します。自分の意見が、どちらの投書の主張に支持できないのかを考え、投書に書かれている理由や事例を参考に自分の考えを明確にすることが大切です。
- 二 1 普段から、複数の内容を一つにまとめて簡潔に書いたり、二つ以上の内容が含まれた一文を内容ごとに複数の文に分けて書いたりするようにすると、表現する力を身に付けることができます。
- 2 「こわさを覚える時には、「」を付けた方が読みやすくなります。

取り組んでみよう！

○ 次の文章の……線部と……線部とのつながりが合っていない文の番号を①から④までの中から一つ選んで書きましよう。また……線部はそのままにして、意味が変わらないように、選んだ文の……線部を正しく書き直しましよう。

① 彼は、家と園の境目を毎日がむらむらとした。その努力は果りました。② 彼は、家と園の境目を毎日がむらむらとした。その努力は果りました。③ 彼は、家と園の境目を毎日がむらむらとした。その努力は果りました。④ 彼は、家と園の境目を毎日がむらむらとした。その努力は果りました。

番号 書き直した文

答え 「……線部はそのままにして、意味が変わらないように、選んだ文の……線部を正しく書き直しましよう。」